

〈東京都立大島海洋国際高等学校 TEL:04992-4-0385 FAX:04992-4-1764〉

メールアドレス：S8000531@section.metro.tokyo.jp

HP アドレス：<http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/index.html>



カメラアマラソン



2月15日(日)校内マラソン大会を兼ねて、大島町のカメラアマラソンに参加しました。天候に恵まれ、絶好のマラソン日和となりました。大島町役場をスタートし、男子は健康センター前折り返しの10km、女子は自然休養村入り口折り返しの5kmです。約1000人のランナーとともに、沿道の声援を受けながらそれぞれ力走しました。1年生の山田清那さんが、一般女子の部で1位となり、大島町長より表彰されました。保護者の皆さんも多数来島され、ランナーとして走ったり、力強い応援をいただきました。まことにありがとうございました。

卒業式



3月8日(日)第7回卒業証書授与式を挙行了しました。離島の際に在校生全員が紙テープで見送りました。出航が一時間遅れ、じっくり別れを惜しむことができませんでした。卒業した73名の諸君の今後の発展を楽しみにしています。



防災講演会

3月13日(金)、防災意識の高揚を目的として、防災講演会を行いました。東京大学海洋アライアンスの丹羽淑博先生に来ていただき、津波の話を中心にお話ししていただきました。説明の他、実験もしていただきました。水槽に1cm水を入れ、波を起こし伝わる速さを計測し、速さを計算しました。次に2cm、4cmと水深を変化させると、はっきりと速さが変わることが分かりました。水深が深いほど波は速く進み、津波の到達時間を算出することに全員で取り組みました。関東大震災の震源で津波が発生したら



約3分で大島に津波が到達することが分かりました。巨大地震が発生したら、直ちに第三中学校のグラウンドに避難するように心がけましょう。

写真は実験の様子です。1人が波を立て、波が水槽の端から端までの移動時間を5名で計測し、平均を出しました。

国際に関連した特別講義

3月13日(金)に元青年海外協力隊員で現在はカメラマン兼大学非常勤講師の関健作さんに特別講義をしていただきました。関さんは、体育教師としてブータンに派遣されて、その国の自然の美しさ、人々の経済発展よりも人としての幸福を追求する姿に、自分、人としてあるべき姿について考えさせられ、現在もブータンの素晴らしさを映像や経験等を通じて日本の学生に伝えているそうです。

講演では、異国の人との交流は言葉だけでなく、意志を伝えようとする気持ちが大切、異国にいるならばできる限りその国の言語を使うようにするとコミュニケーションがうまくとれるようになるという、経験に基づく貴重な話をしてくれました。他にもブータンの人々との衝突から学んだ異文化との付き合い方、幸福とは何か、ブータンの子どもたちの笑顔や豊かな自然の写真を紹介してくれました。

講演後のアンケートでは、ほとんどの生徒が映像の素晴らしさ、関さんの人柄や講演内容について大満足という感想を書いてくれていました。関さんからアンケートをぜひ見たいという要望がありましたので、後日皆さんの感想やメッセージを含むアンケート用紙を郵送しました。関さんの講演会に対する意欲等の更なる励みになるとのことでした。

「若いうちにたくさん悩みな！」印象的な言葉でした……。



卒業生講演会

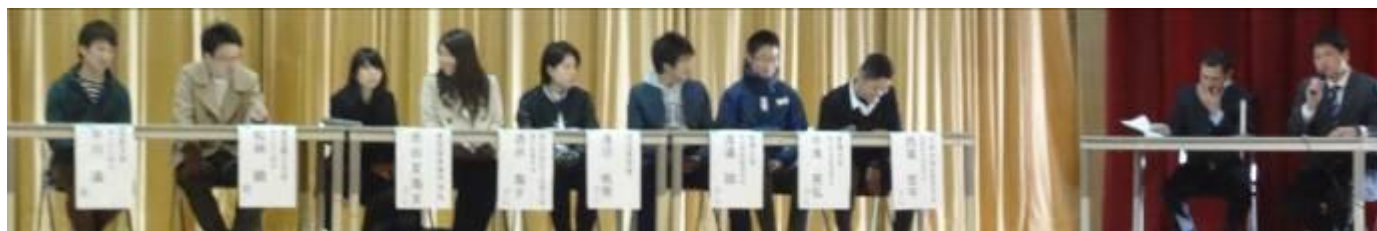
3月13日（金）に6期生の卒業生の方々が8名、在校生のために進路に関する講演をしてくれました。海洋系大学、国際系大学、文系大学、理系大学、保育専門学校、警察官、短期大学と多岐にわたる分野に進路決定した方々の話を聞く良い機会になりました。進学した方からは、進路決定の理由・高校での勉強方法・進学先での様子について知ることができました。警察に決定した方からは、公務員試験に対する備えや高校時代の苦労話など体験に基づくこれから役に立つ情報を聞きました。浪人時代を過ごした先輩は、高校時代にやるべきこと、卒業したからこそ分かる高校時代の貴重さ、本校での体験は他の高校では味わえない達成感があることを熱く皆さんに語ってくれました。

講演会は倉澤先生と吉岡先生の軽快な司会の下、西尾君の英語での挨拶から始まりました。大学から始めたヨットを通して様々な事を学んだ中溝君、ハンドボールを始めると同時に小学生にサッカーを指導している渡辺君、短大ならではの授業の多さ必修科目の多さに苦労している酒井さん、昼間は保育士のバイトをし夜間に保育の専門学校に通う池田さん、1年間の浪人生活を乗り越え見事に希望進路を実現した浅沼さん・松林君・平川君、彼等の経験談は在学生在が本気で進路を考える切っ掛けと助けになるでしょう。以下に個人的に印象に残った言葉を掲載します。

「思うように勉強時間や睡眠時間が取れないけど、現場を知り経験を積むためにこの生活をしている」 「勉強したもの（ノート等）は全て取っておく。今までどれだけ勉強してきたかが自信に繋がる。受験会場には『自信』しか持って行けない」 「友達は余り出来なかった。その代り予備校の先生と仲良くなり色々な事を教えてもらった。先生を上手く使った」

貴重な話、そして元気な姿を見せてくれた卒業生にこの場をお借りして御礼を言わせて頂きます。忙しい中、後輩のために講演をしてくれて本当に有難うございました。在校生の諸君、我々教員が話すよりも身近な先輩方の受験の話はきっと刺激になったと思います。

是非、1，2年生は今後の進路活動に活かしてくれることを期待します。



3月17日の放課後に、船員・海上技術短期大学校進学希望者向けに6期生による進路講演会を行いました。13日に予定していたのですが、その日が海上技術短期大学校の卒業式と重なり、参加できないとのことでした。しかし、進学希望者が多いこと、また、卒業生も後輩のために是非話をしたいとのことで日程を調整して実現できました。

1・2年生の希望者18名に対して、6期生の清水海上技術短期大学校進学者の二人から、入学試験までの高校での準備期間や準備の内容（勉強方法、勉強範囲、面接練習の期間や方法、小論文対策）について詳しい話を聞きました。その後、進学先の情報（一

日の生活、寮生活→23:30にブレーカーが落ちる話は衝撃的でした！、自由時間、授業内容等）も在校生からの質問を交えながら丁寧に教えてくれました。最後は、今年度の学校に届いた内航船の船員求人票の数（なんと、学生数の約2倍近くあったそうです！）と本校同級生で現在ある大手の船会社に勤務する方の給料（月〇●万円）と具体的な数字を教えてもらいました。

東京都農林水産センター大島事業所との協定について



本校では、従来より波浮港にある東京都農林水産総合センター大島事業所（旧水産試験場）の見学などをおこなわせていただいていたところですが、平成27年度より本格的に連携していくことになりました。具体的には、栽培系の授業を大島事業所の施設を利用させていただき、大島の地元魚種の増殖を計画しております。この計画に際しては東京都教育委員会からも特別に予算を配布していただき授業をおこなうもので、多方面から注目される取り組みとなります。

高大連携 特別講義

3月18日に東京海洋大学の海洋政策文化学科から総合海洋政策学の専門家である末永芳美先生をお招きして特別講義を実施していただきました。本校の講義では初めてとなる、海洋政策に関する講義でした。

世界地図は国毎にその国が中心になるように設定されているため、南半球やヨーロッパでは日本でよく見る世界地図とは全く異なる構造で描かれているものを見せていただいて講義が始まりました。初めの頃の講義内容は、水産庁時代に水産界における数々の大きな事件に携わった話（200海里問題で漁師からの怒号を受けた、ロシアとの漁業摩擦を交渉して解決したなど）や水産に関わる法律の話でちょっと理解に苦しんでいる人がいましたが、真剣なまなざしで先生の講義に聞き入っている人もいました。後半は、海洋大学生対象で実施した、日本の水産上重要な10種の魚の名前当てクイズと漁業に関わる法律のクイズをしました。結果は、今回参加した生徒の方が海洋大学の学生よりも得点が高く、水産の常識をよく知っていると褒めていただきました。そして、講義の終わりに高校生である若者に向けた熱いメッセージを語っていただき終了しました。

参加した生徒からは、語学の学習方法や若者としてやるべきことを教えていただいていたなど肯定的な意見がありました。